

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	発芽前	① (水90ℓ) 展着剤 石灰硫黄合剤	10mℓ 10ℓ	発芽前	—	300	(胴枯病) カイガラムシ類	①胴枯病の枝は切り取り焼却する。剪定及び患部の削り取り後は、塗布剤を塗布する。 ②カイガラムシ類の発生がある場合は、スプレーオイル 30 倍（発芽前）を単用散布する。 ③石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに飛散しないようにする。
月 日	開花直前	② 展着剤 オンリーワンフロアブル	10mℓ 50mℓ	前日	3回	350	灰星病・炭そ病	①ハマキムシ類の発生がある場合、フェニックスフロアブル 4000 倍(前日、2 回)を加用散布する。 ②オンリーワンフロアブルに代えてベルコートフロアブル 1000 倍(7 日前、3 回)でもよい。
* コスカシバの発生する園は、開花期までにフェニックスフロアブル200倍(開花期まで、1 回・10aあたり 5～40ℓ)を樹幹部及び主枝に散布する。								
月 日	5月上旬 (落花直後)	③ 展着剤 サムコルフロアブル 10 ナリア WDG	20mℓ 40mℓ 50g	前日 前日	3回 3回	400	ケムシ類 ハマキムシ類 灰星病、炭そ病 黒斑病 褐色せん孔病 幼果菌核病	①訪花昆虫保護のため、殺虫剤の散布は十分注意する。 ②訪花昆虫引き上げ後、ショウジョウバエ類(ケムシ・ハマキムシ類)が発生する場合、バイスロイド EW4000 倍(7 日前、2 回)を散布する。 ③ナリア WDG は、ぶどう・ピーオーネ、洋なし・ルクチェ等に薬害が生じる恐れがあるので他作物同様、飛散しないようにする。
月 日	5月中下旬	④ オンリーワンフロアブル テルスターフロアブル	50mℓ 33mℓ	前日 前日	3回 2回	500	灰星病・炭そ病 ショウジョウバエ類 ハダニ類	①この回より収穫後まで展着剤は使用しない。 ②黒斑病発生園は、ベルコートフロアブル 1000 倍(7 日前、3 回)を加用散布する。 ③灰星病の発生が多いので丁寧に散布する。 ④ナミハダニの発生が心配される場合はコテツフロアブル 2000 倍(14 日前、2 回)を加用散布する。 (収穫前使用時期に注意する)
月 日	6月上旬	⑤ フルーツセイバー ディアナ WDG (収穫前最終防除)	66mℓ 10g	前日 前日	3回 2回	500	灰星病・炭そ病 幼果菌核病 ショウジョウバエ類 ハマキムシ類	①(スリップス類)、カメムシ類の発生がある場合は、アルバリン顆粒水溶剤2000 倍(前日、2 回)を加用散布する。(果実汚染注意する。) ②フルーツセイバーに代えてアミスター10 フロアブル 1000 倍(前日、3 回)でもよい。 ③ディアナWDGに代えてアーデントフロアブル 2000 倍(前日、3回)でもよい。
晩生種特別散布： 6 月中下旬に灰星病・ショウジョウバエ類の発生園は、オーシャインフロアブル 3000 倍(前日、5 回)とアーデントフロアブル 2000 倍(前日、3回)を散布する。								
月 日	7月上旬 収穫終了直後	⑥ 展着剤 スターマイトフロアブル トレノックスフロアブル スプラサイド水和剤	20mℓ 50mℓ 200mℓ 66g	前日 収穫後～落葉期 7日前	1回 3回 3回	600	ハダニ類 褐色せん孔病 カイガラムシ類 ショウジョウバエ類 カメムシ類 (ケムシ類)	①トレノックスフロアブルに代えて、キンセツ水和剤 80 の 1000 倍(収穫後～落葉期、3 回)でもよい。 キンセツ水和剤 80 は葉が軟弱な状態で薬害(葉のせん孔)が心配される場合、クレフノン 100 倍を加用する。 ②スターマイトフロアブルに代えてダニサラバフロアブル 1000 倍(前日、2 回)でもよい。
月 日	7月下旬	⑦ 展着剤 コロマイト乳剤 オキシラン水和剤 サイアノックス水和剤	20mℓ 100mℓ 166g 100g	7日前 収穫後～落葉期 14日前	1回 3回 2回	600	ハダニ類 せん孔病 ケムシ類 (ハマキムシ類)	①カメムシ類、カイガラムシ類(ケムシ類)等が発生する場合は、スプラサイド水和剤 1500 倍(7日前、3 回)を散布する。 ②ダニゲッターフロアブルは開花期の水稻に飛散すると不稔等の薬害を発生する場合があるので、飛散しないようにする。 ③さらに、ハダニ類が発生する場合は、8月下旬にカネマイトフロアブル 1000 倍(7 日前、1 回)を特別散布する。 ④トレノックスフロアブルに代えてオキシラン水和剤 600 倍(収穫終了後～落葉期、3 回)でもよい。
特別散布： カイガラムシ類幼虫の発生園は8月下旬にアプロードフロアブル 1000 倍(7日前、2 回)を散布する。								
月 日	8月上中旬	⑧ 展着剤 トレノックスフロアブル ダニゲッターフロアブル サムコルフロアブル 10	20mℓ 200mℓ 50mℓ 40mℓ	収穫後～落葉期 前日 前日	3回 1回 3回	600	褐色せん孔病 ハダニ類 ケムシ類 ハマキムシ類 (アメリカシロヒトリ)	
月 日	9月上旬	⑨ ICボルドー66D ダイアジノン水和剤 34	2.5kg 100g	— 14日前	— 2回	600	せん孔病 ハマキムシ類 アメリカシロヒトリ ウメシロカイガラムシ	①ICボルドー66D の 40 倍に代えて 4ー4 式ボルドー液を使用してもよい。(展着剤加用) ②ボルドー液は桃、プラム等に薬害が発生するので隣接園及び他作物へは飛散しないようにする。
月 日	9月下旬～	⑩ ICボルドー66D スミチオン乳剤	2.5kg 100mℓ	— 21 日前	— 2 回	600	せん孔病 ハマキムシ類 (ケムシ類) (コスカシバ)	①樹体が弱い場合は、スミチオン乳剤に代えてスミチオン水和剤40の 800 倍(21 日前、2回)を使用する。 ②ボルドー液は桃、プラムに薬害が発生するので、隣接園及び他作物へは飛散しないようにする。 ③コスカシバが発生する場合は、ラビキラー乳剤 200 倍(落葉後～発芽前、1 回)-(スミチオン乳剤・水和剤なども回数に含め 2 回まで)-を樹幹部及び主枝に散布する。